



志を立て 未来を拓く 心豊かな生徒の育成

三刀屋中学校だより

令和3年7月

TEL 45-2421

親子ふれあい参観日

昨年度はコロナ禍のためPTA活動も中止、延期になり保護者同士のつながりや保護者と教職員とのつながる機会が激減しました。

また、生徒にとっても家族と出かける機会や一緒に楽しむ機会がなくなっている現状から、PTA主催による親子ふれあい活動(グランドゴルフ)が計画され、6月20日(日)の「うんなん家庭の日」に親子ふれあい参観日という形で実施しました。

前日の午前中まで雨が降り開催が危ぶまれましたが、当日は快晴となり逆に熱中症の心配をするほどの天候でした。1年生が1、2時間目、2年生が3、4時間目、3年生が5、6時間目と時間帯を分けて実施したところ保護者の方の8割以上の参加があり、いろいろところで笑い声が聞こえるなど楽しく活動ができました。開催するにあたり、コロナ感染の心配をしましたが、検温や手指消毒、器具の消毒やソーシャルディスタンス等に気をつけながら実施したところ、2週間が過ぎても感染者の報告がなく、安心したところです。この活動を実施するにあたり、飯塚PTA会長を始めとして各学年部の学年委員さんの方には、計画、準備、運営に至るまで大変お世話になりました。ありがとうございました。また、この活動に際し、グランドゴルフの会場を移していただいた地域の方々には大変申し訳ありませんでした。



【 楽しく活動する1年生親子 】



【スコアを記入する2年生親子】



【多くの人に見守られながらプレーする3年生】



【聖火トーチを持つ3年生徒の部 優勝片寄さん】

コロナ禍で、地域の方や保護者の方との活動が制限を受けていますが、『主体的な学習者を生む社会科カリキュラムに向けて』の著者であり社会科教育研究者のステイブン・J・ソーントンの研究によると、「地域の人や課題にじかに触れる機会」を持つことで自己・社会効力感が育ち、「挑戦を周りが支援」することでチャレンジ精神・行動力が生まれ、「異なる立場や人との関わりがある」ことで客観的自己理解が育つと述べています。さらに、このような「学びの土壌・環境」が低いと、探究活動をしても生徒は育たないといっています。また、大阪大学の志水宏吉教授は家庭・地域、学校での子ども達と周囲との「つながり」格差が学力に強く影響すると訴えています。本県や雲南市においても学校・家庭・地域が協働を図りながら未来を担う児童・生徒の育成の必要性を掲げています。コロナ禍で、保護者の方に来ていただけるか心配していましたが、多くの方々に集っていただき協力してもらえる三刀屋中校区の保護者の方々の、教育力を再認識するとともに感謝する一日となりました。

進路説明会



【真剣に説明を聞く3年生】

6月23日(火)、24日(水)に進路説明会を行いました。生徒の進路希望調査をもとに、希望が多かった高等学校8校に来ていただき、求める生徒像や入学までに身につけておいてほしい力、進路先、授業内容、部活動などの説明を受けました。説明の中で印象的だったのは、これまでは「いかに速く正確に解く力(パズルを完成する力)」が求められましたが、これからは「新たな創造力(レゴブロックのようにさまざまなものを創りあげる力)」が求められるということ。また、社会の基本であるコミュニケーション力(挨拶、相手に自分の思いや気持ちを伝える力、相手の話を理解する力)も必要であることです。これらの力をつけるためには、これまで得た知識や技能を使って新たなモノを創造する経験、身近な大人(家族、親戚、教員)以外の人とコミュニケーションをする経験などのキャリア教育の重要性を改めて感じました。

生徒会主催の放課後学習会

6月28日(月)から始まる期末試験に向けて、生徒会主催による放課後学習会が6月22日(火)から始まりました。執行部の呼びかけのもと各学年に分かれて学習し、時には後輩が先輩に質問をして、先輩が優しく教える姿が見られました。



【3年生の様子】



【2年生の様子】



【1年生の様子】

救急法講習会

7月1日(木)に2年生、3年生を対象にした救急法講習会を、雲南消防署から田中さん、野島さんの2名に来ていただき行いました。保健体育の学習で、すでに「応急手当の意義」で気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED使用の

心肺蘇生法について知識として学んでおり、今回は実習を通して実際に応急手当ができるようにするために講習会を行いました。コロナ禍ということもあり、マウス・ツー・マウスの実習はできませんでしたが、AEDの使い方や胸骨圧迫を真剣に学んでいました。



【説明を真剣に聞く2年生】



【胸骨圧迫をする3年生】

《生徒の感想より》

○救急法講習を終えて、意識がない時間によってどれだけ亡くなるリスクが高くなるかがわかりました。でも、今日習った胸骨圧迫を行うと死亡のリスクが減って助かることがあるとわかったので、すごいと思いました。胸骨圧迫をする前にしなければならないことも多かったけど、もしそういう機会に出会ったときに、思い出してできるようになりたいと思いました。

○心臓の位置はずっと左だと思っていたし、AEDの使い方もわからなかったけど、田中さんと野島さんが優しく教えてくださったので、すごく勉強になりました。今日習ったことは、人の命を救うことなので家族にも伝えたいと思います。

○3分で助かる確率が20%、5分で助かる確率が15%など、たくさんのことを周囲の人と協力し、助け合うことが第一に大事だと改めて思いました。パニックになってもしっかりその人を助けたいと思いました。

持続可能な開発目標(SDGs)

今、テレビや新聞で目にするようになった「SDGs(エスディージーズ)」。これは2019年の9月にニューヨーク国連本部において開催された「国連持続

可能な開発サミット」において、150を超える加盟国リーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。2030年を期限に「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、17の目標(①貧困 ②飢餓 ③保健 ④教育 ⑤ジェンダー ⑥水・衛生 ⑦エネルギー ⑧成長・雇用 ⑨イノベーション ⑩不平等 ⑪都市 ⑫生産・消費 ⑬気候変動 ⑭海洋資源 ⑮陸上資源 ⑯平和 ⑰パートナーシップ)に取り組んでいます。2020年の日本の達成度は166カ国中17位です。17の目標が色で表されていると思いますが、達成度の高い順から緑(達成している)→黄色→オレンジ→赤色(深刻な課題がある)と評価されています。身近な問題として日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品ロスが年間約612万トン(東京ドーム5杯分)です。これは、世界の食糧援助量の1.4倍(420万トン)です。日本の食糧自給率は約37%ですから、海外から食料を輸入して廃棄していることとなります。私たちができる取組として、冷蔵庫の賞味期限を確認して買い物をする、食べられる分だけ調理する、外食は食べきれぬ量を注文する、買いすぎた食品や余った贈答品はフードドライブなどへ寄付する等を行うことで、飢餓に苦しむ8.2億の人を救うことにもつながります。持続可能な未来にするために、「自分でできること」から取り組んで行くことが大切だと思います。

学級弁論大会

学級弁論大会を行いました。この弁論は、①自分の考えや気持ちをじっくり振り返る機会とする。②友達の考えや価値観を知ることによって、自分の考えを深める。③自分の意見が友達に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書く能力を養うことを目的としています。また、新学習指導要領の「思考力・判断力・表現力等」や感受性、コミュニケーション能力にも深く関わっています。1年生にとっては、友達の前で自分の考えや意見を発表する初めての経験で緊張していました。全体的に原稿を読むために下を向く生徒が多く少し残念な気がしました。8月30日(月)には、本校を会場に少年の主張雲南市大会が行われ、本校からは2名が代表として出場します。



【1年生の様子】



【2年生の様子】



【3年生の様子】

《お願い》

三刀屋町保幼こ小中高連携会議

～「キャリア教育推進部」より地域の皆さまにお願い～

三刀屋町内の保育所、こども園、小学校、中学校、高等学校で組織している保幼こ小中高連携会議の中の「キャリア教育推進部」では、連携して「読書活動」を推進しています。しかし、各園・所・小・中学校とも予算が限られており、十分に整備できない状況にあります。そこでお願いとして、「三刀屋町内のご家庭で読まれなくなった絵本や本がありましたら寄贈していただけないか」と考えています。保育所・こども園・小学校・中学校に希望をとったところ下記の本の希望がありました。ぜひご協力をお願いいたします。

【探している絵本・本の種類】

- ・自然・科学・生き物の図鑑 ・行事や季節・食べ物・生き物に関する絵本 ・14ひきのねずみシリーズ
- ・おばけシリーズ ・ばばあちゃんシリーズ ・だるまんシリーズ ・ももんちゃんシリーズ
- ・がたんごとんシリーズ・あっぷっぷシリーズ ・しかけ絵本 ・エリックカールさんの絵本
- ・かこさとしさんの絵本 ・おしくらまんじゅう・わんぱくだんシリーズ ・おめんです ・福音館の絵本
- ・詩集 ・歴史 ・伝記漫画 ・米づくり、野菜づくりの本
- ・郷土資料（島根県・雲南市に関するもので、出来れば発行から10年以内）

☆募集期間：8月23日(月)～8月27日(金)

☆持ち込み場所：近隣の三刀屋町内の園所小中学校へ

☆汚れのある本や破損している本、書き込みのあるものの寄贈はご遠慮ください。

《訂正とお詫び》

先月の6月号の総体の結果報告で、バスケット部のシュートの写真で「片寄晃生さんのシュート」と掲載していましたが、掲載内容に誤りがありました。シュートをしているのは「佐藤敦成さん」でした。お詫びし訂正します。すみませんでした。